

わらしなだより

第7号

牧ヶ谷古墳群と地域探訪

南藁科編を開催しました！

藁科生涯学習センターでは、藁科地域の史跡や名所を巡る講座を毎年実施しています。



今年度は、南藁科地域の中でも主に牧ヶ谷地区を取り上げ、「牧ヶ谷古墳群と地域探訪」南藁科編を開催しました。

「耕雲寺」や牧ヶ谷地区のシンボル「牧ヶ谷地藏堂」に加え、「志貴家奥都城」という個人が持つ貴重なお墓まで、牧ヶ谷地区の名所を三時間かけて回り、耕雲寺では、藁科のお茶とお菓子を味わいました。

小春日和の穏やかな一日、自治会の皆様にご案内と地域のお話をしていただき、心温まり、記憶に残る地域散策となりました。



・牧ヶ谷山と特異な歴史を背景にもつ耕雲寺・

耕雲寺は牧ヶ谷にある臨済宗妙心寺派の寺院で、敷地内は手入れが行き届いており美しいです。そんな耕雲寺は他のお寺にはない特異な歴史をもっています。本講座で訪れた際に、前ご住職から伺ったお話は興味深いものばかりでした。その中から3つご紹介します。

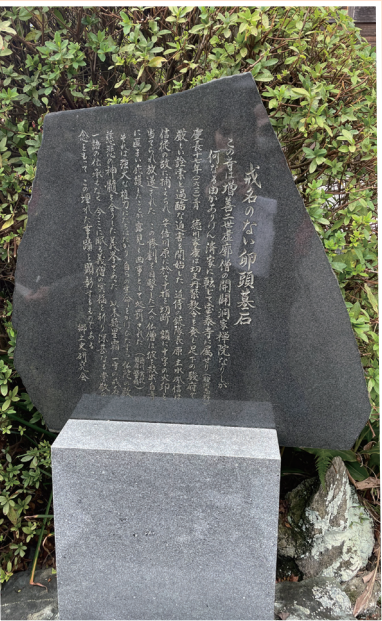
【耕雲寺で出土した貴重な土器】

耕雲寺周辺で出土した土器を見せていただきました。1300年ほど前に出土した土器は全て素焼きです。土器は割れているものもありますが、壺のように見えるものや、小皿として使えるような形をしているものなど大まかな形は残っており、当時の様子が窺える貴重な出土品です。



【キリシタン迫害中に手を差し伸べて・・・】

慶長17年(1612年)3月に徳川家康は禁教令を出しました。キリシタンは厳しい詮索と過酷な迫害を受け、キリシタンである原主水胤信という人物は指を切断され、額に十字の火印を当てられました。そんな原主水胤信を哀れに思った当時の耕雲寺住職は、彼を救出しお寺に匿いました。しかし、結局匿ったことが発覚してしまい住職も処罰されました。この内容は耕雲寺内の石碑に残っています。また、歴代住職の卵頭墓石には戒名のないものがあります。処罰された住職だとわからないようにするため、名前を刻まなかったと考えられています。



【駿府の名工「森田鶴堂」の絵馬】

耕雲寺の観音堂の入り口には、3か所の霊場であることを示す札が付いています。その一つである「駿河一国観音霊場巡り」においては、当時の巡礼の様子がわかる絵馬が観音堂に飾られています。この絵馬は、漆喰銀絵の名工である伊豆の長八と並び讃えられた「森田鶴堂」が描きました。絵馬には女性7人、男性1人が描かれており、彼らが持つ傘や鞆の柄まで丁寧に再現されています。



耕雲寺裏山で発見！牧ヶ谷古墳群

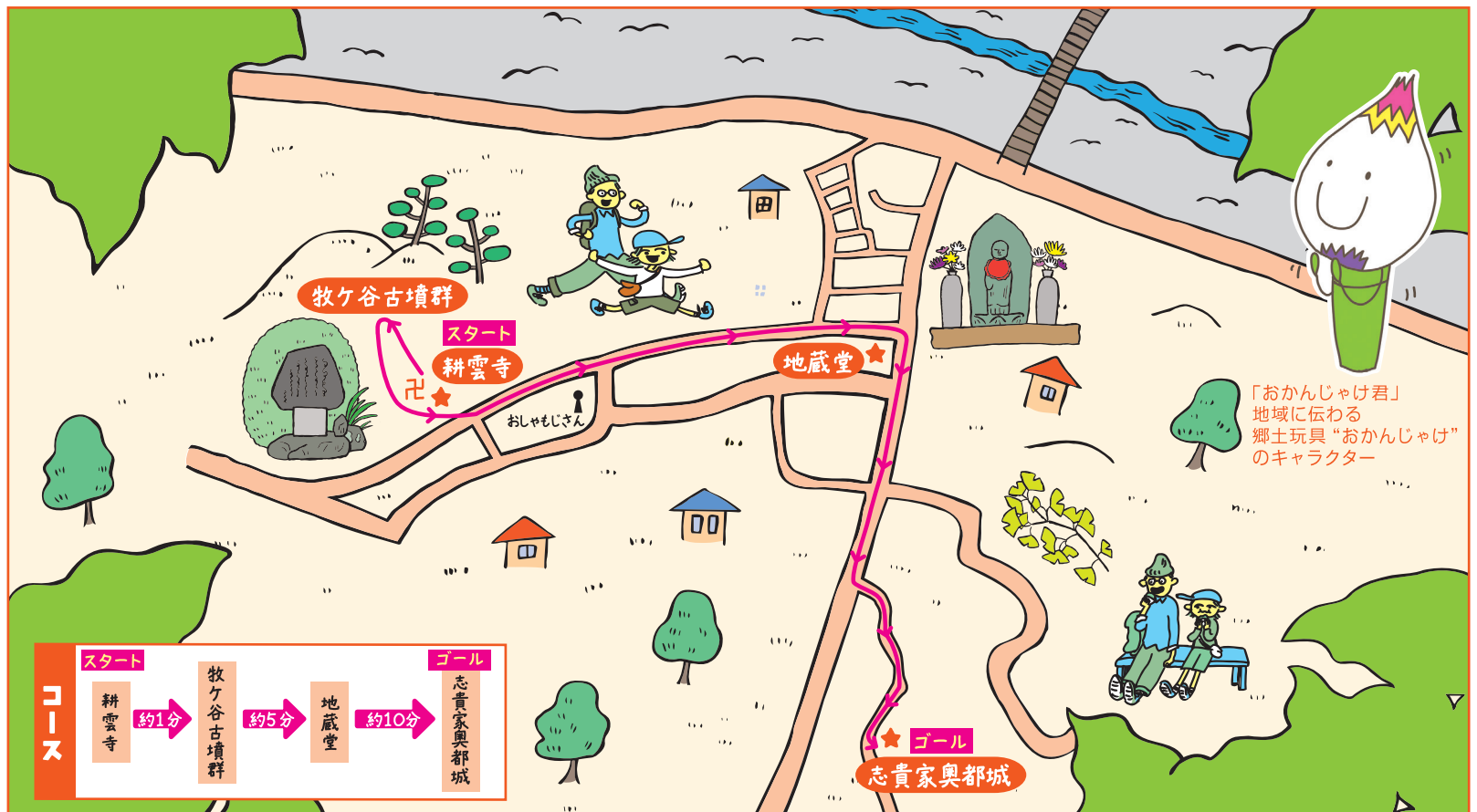
耕雲寺の裏山にある牧ヶ谷古墳群は6世紀末〜7世紀中頃の築造で、大きな墳丘はなく、地山を掘りこんだ横穴式石室です。昭和44年7月ミカン畑の開墾中に当時の住職が古墳群を見つけ、教育委員会に連絡しました。調査により5基の古墳が発見されました。古墳調査の後、2号墳のみが保存され他の4墳は埋め戻されました。

石室の規模は幅1.2m×1.5m、奥行7m、高さ2mで、箱式石棺3基をはじめ、武器や装身具・馬具も発見されています。本講座で受講者の皆様が見たのは2号墳です。中を覗いて観察する方が大勢いらっしゃいました。



「わらしなだより」第7号をお届けします。

この度は「わらしなだより」をお手に取っていただきありがとうございます。この「わらしなだより」は藁科地域をより深く知っていただくため、地域の方にご協力をいただき作成しました。今回の第7号は南藁科地域、主に牧ヶ谷地区の史跡を紹介しています。本紙は令和7年11月29日(土)に開催した「牧ヶ谷古墳群と地域探訪」南藁科編で伺ったお話を元に作成しております。自治会連合会の方々や地域住民の方々のご協力してくださり、牧ヶ谷地区の史跡の解説や、住民だからこそ知っている情報やエピソードを聞くことができました。じっくりお読みいただけますと幸いです。



住民を見守る地藏堂

牧ケ谷地藏堂は永生5年(1508年)に耕雲寺に建立され、寛永13年(1636年)に現在の場所に移転されました。古い歴史をもつ地藏堂は場所を移しながら住民を見守ってきました。

また、牧ケ谷地藏堂を中心に道が二手に分かれます。そのため、待ち合わせ場所のように利用する方や、地藏堂の縁側を利用する方、立ち止まってお話をする方がいらっしゃいます。

地域住民に長く愛されてきた憩いの場です。



牧ケ谷地区のシンボル「牧ケ谷地藏堂」

牧ケ谷バス停から歩いて5分程でたどり着く牧ケ谷地藏堂では、毎年地藏尊施餓鬼供養祭が行われています。新型コロナウイルスの影響でしばらく実施していませんでしたが、住民の声を受け2024年度から復活しました。



施餓鬼供養祭とは？

餓鬼道に落ちた無縁仏に施しを行うため団子を供養する行事です。

この団子を食べると夏を元気に過ごせるという言い伝えから、住民に団子がまかれてきました。

以前までは7月24日と供養祭の日付が決まっており、団子も組長の皆様の手作りでした。

現在は7月24日にこだわらず休日に実施するようにし、団子も業者に発注するようになりしました。

形を変えながら、この施餓鬼供養祭がいつまでも続いていくことを願います。

こんなところに貴重なお墓が！志貴家奥都城

南藁科には静岡浅間神社内にある、神部神社の神主の奥都城があります。奥都城とは神道式のお墓のことです。

志貴家は、およそ4世紀頃に崇神天皇の勅命により神部神社の神主を勤めたのが初代です。明治の初めまで志貴家は世襲によって神部神社の神主を受け継いでおり、志貴家奥都城には代々の神主が眠っています。

このように、歴史的に貴重な背景をもつため、受講者の方の中には「場所がわからず諦めていたので今回見ることができて良かった」と嬉しそうに話す方もいらっしやいました。

当日は秋のイチョウに囲まれた神秘的な空間の中、講師である杉山寿英様の解説を拝聴しました。

※志貴家奥都城は個人の所有物です。勝手に敷地内に入らないようご協力をお願いいたします。



「わらしな地域探訪サポーター養成講座 南藁科編」を開催しました！

「わらしな地域探訪サポーター養成講座」は、藁科地域の歴史を伝承してくれるような人材を養成するために実施している講座です。

今年度は南藁科地域を取り上げ、耕雲寺、牧ケ谷地藏堂の他に、洗耳寺やおしゃもじさんを実際に巡り、最後に



は南藁科地域の歴史を紹介する「南藁科歴史の魅力紹介集」を作成しました。「わらしなだより」と共にぜひお手に取ってご覧ください。

編集後記

講座当日はお天気に恵まれ、ウォーキング日和の一日でした。急な坂道や、歩道が狭く歩きにくい場所もありましたが、参加者の皆様にとっては余裕だったようです。途中で挟んだ休憩時間は、お一人で参加されていた方が周りの方とお話する機会につながったようで、足を休めるだけではない、より良い時間となりました。また、藁科生涯学習センター主催講座「わらしな地域探訪サポーター養成講座」でも南藁科地域を取り上げました。ご協力いただいた皆様、ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました！



ご協力いただいた団体等

- ・谷津好雄 (静岡市葵区南藁科学区自治会連合会)
- ・長島玄雄 (耕雲寺前任住職)
- ・耕雲寺関係者
- ・杉山寿英
- ・しき化粧品

【敬称略、順不同】

静岡市藁科生涯学習センター

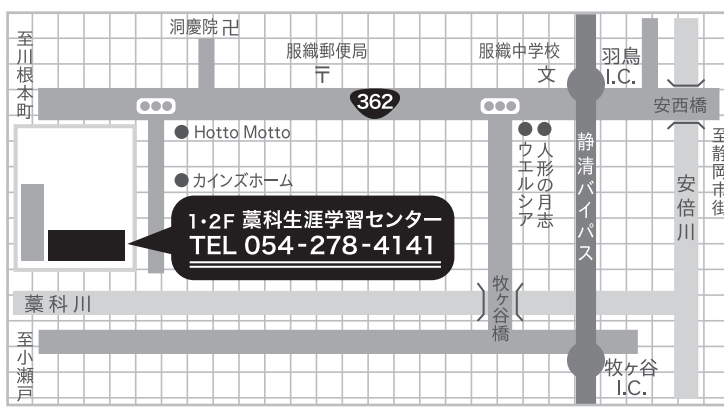
指定管理者 公益財団法人静岡市文化振興財団



住所 〒421-1217 静岡市葵区羽鳥本町5-9
TEL 054-278-4141
FAX 054-277-2127
URL <https://sgc.shizuokacity.jp/>
開館時間 9:00-21:30
休館日 月曜日・祝日・年末年始

交通機関のご案内

バス JR 静岡駅北口 3 番のりば・新静岡バスターミナル 2 番のりば
しずてつバス藁科線『藁科学習センター』バス停下車(所要時間約30分)
静岡駅方面から
安西通りから国道 362 号線に入り、羽鳥本町まで進む。
左側の茶色い建物、カインズホームが目印。



※駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。